

# 東燃ゼネラル石油株式会社

## 2016年12月期第3四半期決算概要

2016年11月11日

### 取引の記載・見通しに関する注意事項

この資料に記載されている当社および当社グループ各社の事業に関わる計画、見通しについては、本資料作成時における当社の見通しに基づき記載しておりますが、日本および世界経済の動向、原油および製品価格、円ドルの為替レート、需給の変動に大きく左右される業界の競争状況などにより影響を受けます。これらの影響により、実際の業績は本資料で記載した見通しとは大きく異なる可能性があることにご留意ください。

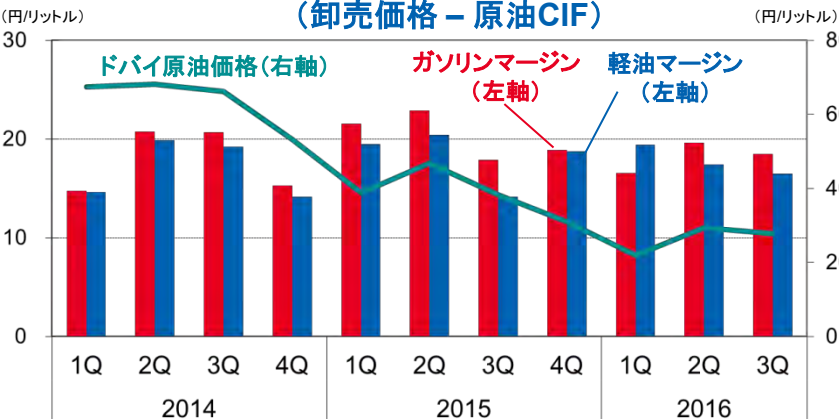


東燃ゼネラル石油株式会社

# 2016年7-9月期の事業環境

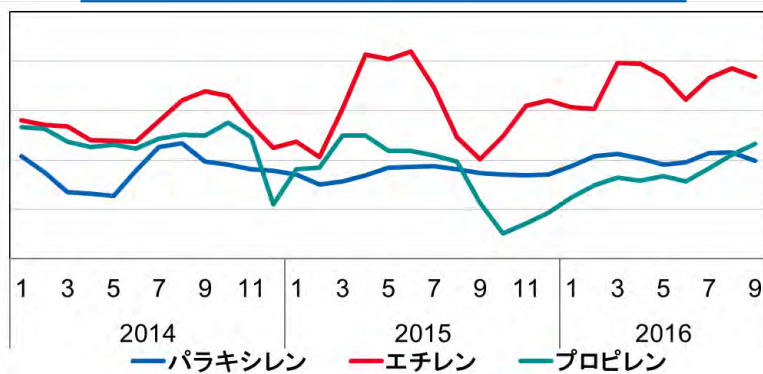
## 国内石油製品マージンの推移

(卸売価格 - 原油CIF)



石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

## 石油化学品の対ナフサ スプレッド



ブルームバーグのデータに基づいて作成

## 石油事業

- 2月以降継続的に上昇傾向にあった原油価格は7月に反落。円高の影響もあり7-9月期平均は27.8円/リットルに下落 (4-6月期 29.3円/リットル)
- 主要5油種の国内需要は前年同期比 -0.1%
  - ガソリン : -0.9%
  - 中間留分 : +0.6%
  - C重油 : +0.9%
- 国内マージンは7月に大幅縮小するも、ガソリンは8月以降大幅に改善
- 輸出マージンはガソリンがさらに悪化、中間留分は引き続き低迷

## 石油化学事業

- エチレンマージンは4-6月期並みの高水準で推移、プロピレンマージンは上昇
- 芳香族類マージンも堅調に推移

# 2016年1-9月期 決算概要

- 売上高は前年同期比5,356億円減、原油・製品価格の下落が主たる要因
- 営業利益は286億円、前年同期比185億円増
  - 石油事業 : 402億円減、国内・輸出マージン共に減少
  - 石油化学事業 : 93億円増、エチレンをはじめとする製品マージンが良好
  - 在庫評価損益 : 494億円増、前年同期比で在庫評価損は縮小
- 当期純利益\*は207億円、前年同期比192億円増

(億円)	'15年1-9月期	'16年1-9月期	増減
売上高	20,438	<b>15,082</b>	-5,356
<b>営業利益</b>	<b>101</b>	<b>286</b>	<b>185</b>
経常利益	79	<b>257</b>	177
特別損益	81	<b>5</b>	-76
<b>当期純利益*</b>	<b>16</b>	<b>207</b>	<b>192</b>

(営業利益の内訳)

在庫評価損益	-601	<b>-108</b>	494
のれん償却	-131	<b>-131</b>	-
調整後営業利益	833	<b>524</b>	-309
石油事業	611	<b>209</b>	-402
石油化学事業	223	<b>316</b>	93

<b>石油事業</b>	
'15年1-9月期	<b>611</b>
・マージン	-319
・数量	-25
・経費	-58
'16年1-9月期	<b>209</b>

<b>石油化学事業</b>	
'15年1-9月期	<b>223</b>
・マージン/数量	79
・経費	14
'16年1-9月期	<b>316</b>

\* 当期純利益は、非支配株主に帰属する利益を除く親会社(当社)に帰属する当期純利益

# 2016年7-9月期営業利益増減の要因分析

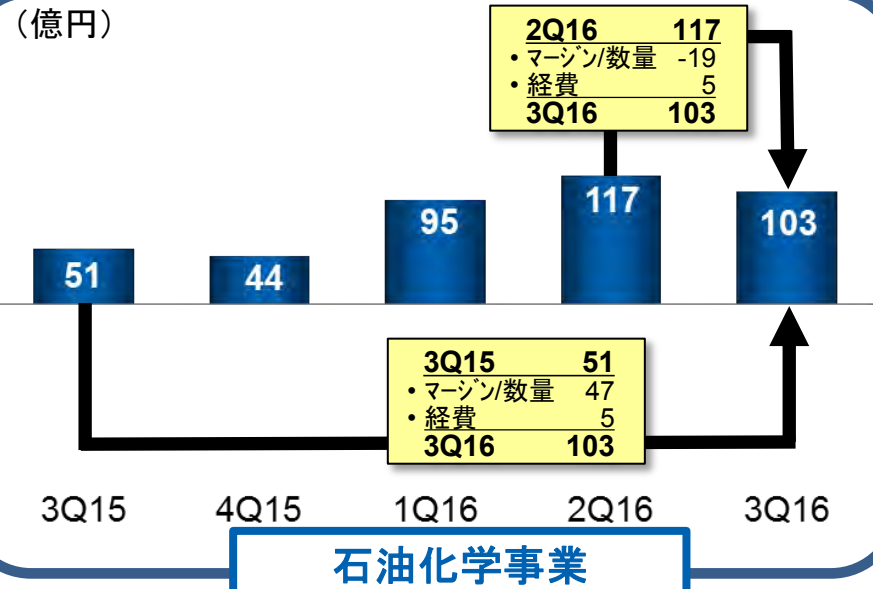
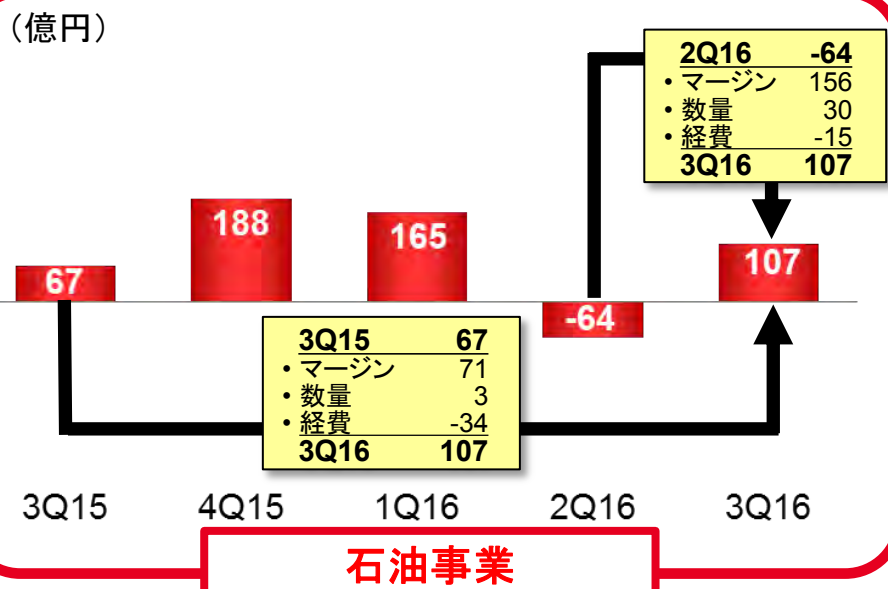
## 石油事業

- 前年同期比、マージンは大幅に改善
- 川崎工場の大規模定期修理の完了により、4-6月期比収益性向上

## 石油化学事業

- 好調なエチレンマージンに加え、他製品マージンも堅調に推移

### 調整後営業利益の四半期比較(2015年7-9月期～2016年7-9月期)



# 販売数量

製品	'15年 1-9月期	'16年 1-9月期	増減
<b>石油製品 (千KL)</b>			
ガソリン	8,068	<b>8,175</b>	+1.3%
灯油	1,824	<b>1,650</b>	-9.5%
軽油	2,855	<b>2,955</b>	+3.5%
A重油	934	<b>1,126</b>	+20.5%
C重油*1	1,744	<b>1,777</b>	+1.9%
LPG・ジェット・他*1*2	2,822	<b>3,139</b>	+11.2%
<b>国内販売合計*3</b>	<b>18,246</b>	<b>18,822</b>	<b>+3.2%</b>
<b>輸出</b>	<b>5,820</b>	<b>4,367</b>	<b>-25.0%</b>
<b>石油製品</b>	<b>24,066</b>	<b>23,189</b>	<b>-3.6%</b>
<b>石油化学製品 (千トン)</b>			
オレフィン類その他	1,197	<b>1,222</b>	+2.1%
芳香族類	650	<b>757</b>	+16.4%
特殊化学品	164	<b>180</b>	+9.6%
<b>石油化学製品</b>	<b>2,012</b>	<b>2,159</b>	<b>+7.4%</b>
<b>設備稼働率 (常圧蒸留装置ベース)</b>	<b>83%</b>	<b>79%</b>	

増減  
国内全体

-0.6%  
+0.1%  
-1.3%  
+2.4%  
-17.5%

国内全体  
'16年  
1-9月期

85%

□ 国内販売は増販するも、輸出数量の大幅減により、石油製品の販売数量は前年割れ

- マージンが相対的に良かったガソリン・軽油の国内販売を増加
- A重油は国内販売を強化
- C重油は船舶用燃料を増販
- 海外市況の悪化、4-6月期の川崎工場における定期修理により輸出は大幅減

□ 芳香族類の数量増加はガソリンマージンとの比較による製造・販売の最適化、ならびに千葉工場におけるミックスキシレン回収装置の運転開始による

\*1 2016年の製品分類に合わせ、2015年のC重油、LPG・ジェット・他の数量を調整

\*2 LPG事業のジクシス株式会社への統合による影響を2015年実績から調整

\*3 保税品販売は国内販売数量に含む

# 2016年連結業績予想\*1

- 2016年通期の営業利益予想は480億円、8月発表時から変更なし
  - 売上高:2,000億円減、当期までの原油・製品価格の下落を反映
- 期末の特別配当\*2 9.5円を加え、1株当たり年間配当予想は47.5円

(億円)	'16 1-9月 実績	通期予想		8月発表比 増減
		8月発表	今回発表	
売上高	15,082	23,000	21,000	-2,000
営業利益	286	480	480	-
経常利益	257	470	470	-
特別損益	5	10	10	-
当期純利益*3	207	310	310	-
(営業利益の内訳)				
在庫評価損益	-108	-20	-20	-
のれん償却	-131	-170	-170	-
調整後営業利益	524	670	670	-
石油事業	209	310	310	-
石油化学事業	316	360	360	-

\*1 ドバイ原油価格(45ドル/バレル)および為替レート(105円/ドル)が2016年末まで継続する前提で算出

\*2 JXホールディングス株式会社との経営統合が行われることが条件

\*3 当期純利益は、非支配株主に帰属する利益を除く親会社(当社)に帰属する当期純利益

# キャッシュ・フロー、D/Eレシオ

- 2016年1-9月期の調整後フリー・キャッシュ・フローは613億円
  - 揮発油税等の支払タイミングの影響(516億円)を調整
- 2016年9月末のネット借入は2015年末比66億円増加

	億円
フリー・キャッシュ・フロー	97
配当金支払い/その他	(163)
ネット借入(増加)/減少	(66)

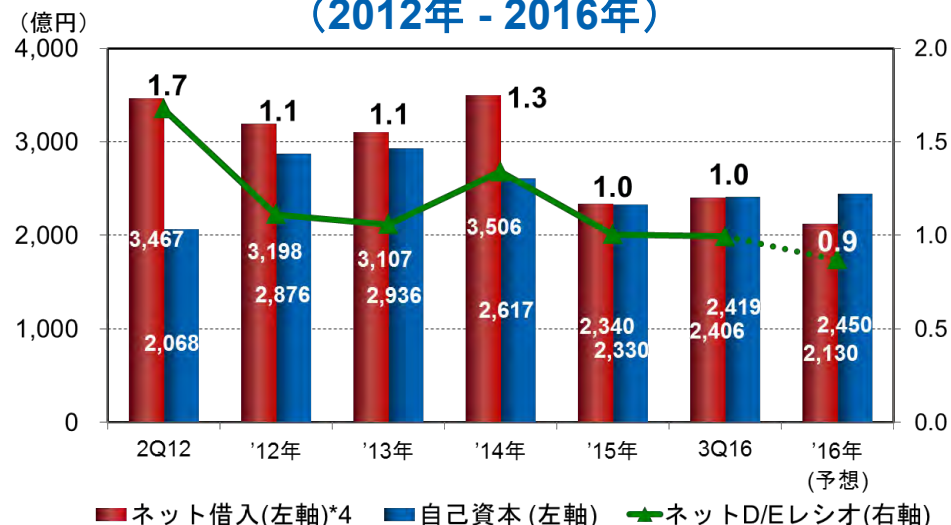
- ネットD/Eレシオは2016年9月末の1.0から2016年末には0.9に改善の見込み
  - 堅調なフリー・キャッシュ・フロー
  - 揮発油税等の支払タイミングによる影響は年末には消滅

\*1 在庫評価損益を除く  
 \*2 のれんの償却を含む  
 \*3 営業活動および投資活動によるキャッシュ・フローの合計  
 \*4 借入金から現金および現金等価物を差し引いて算出

## 2016年1-9月期 キャッシュ・フロー(億円)

税引前純利益*1	370
減価償却費*2 / (固定資産の取得)	73
運転資本の変化、その他	170
<b>調整後フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>613</b>
揮発油税等の支払タイミングによる影響	-516
<b>フリー・キャッシュ・フロー*3</b>	<b>97</b>

## 期末のネット借入、自己資本およびD/Eレシオ(2012年 - 2016年)



---

## 補足資料



# 2016年連結業績予想の前提と感応度

## □ 今回の業績予想の前提

主な項目	単位	前提
ドバイ原油価格(FOB)	米ドル/バレル	45
為替レート	円/米ドル	105

上記前提は、売上高および在庫評価損益の計算に使用

## □ 前提の変化に伴う利益への影響額(年間換算)

主な項目	単位	上昇幅	年間換算影響額(億円) 営業利益
ドバイ原油価格(FOB)	米ドル/バレル	10	270* <sup>1</sup>
為替レート(円高)	円/米ドル	10	-80* <sup>1</sup>
石油精製マージン	円/リットル	1	350* <sup>2</sup>

\*<sup>1</sup>在庫評価損益の影響のみ。原油価格変動のタイミングや在庫数量によっては異なる結果となりうる

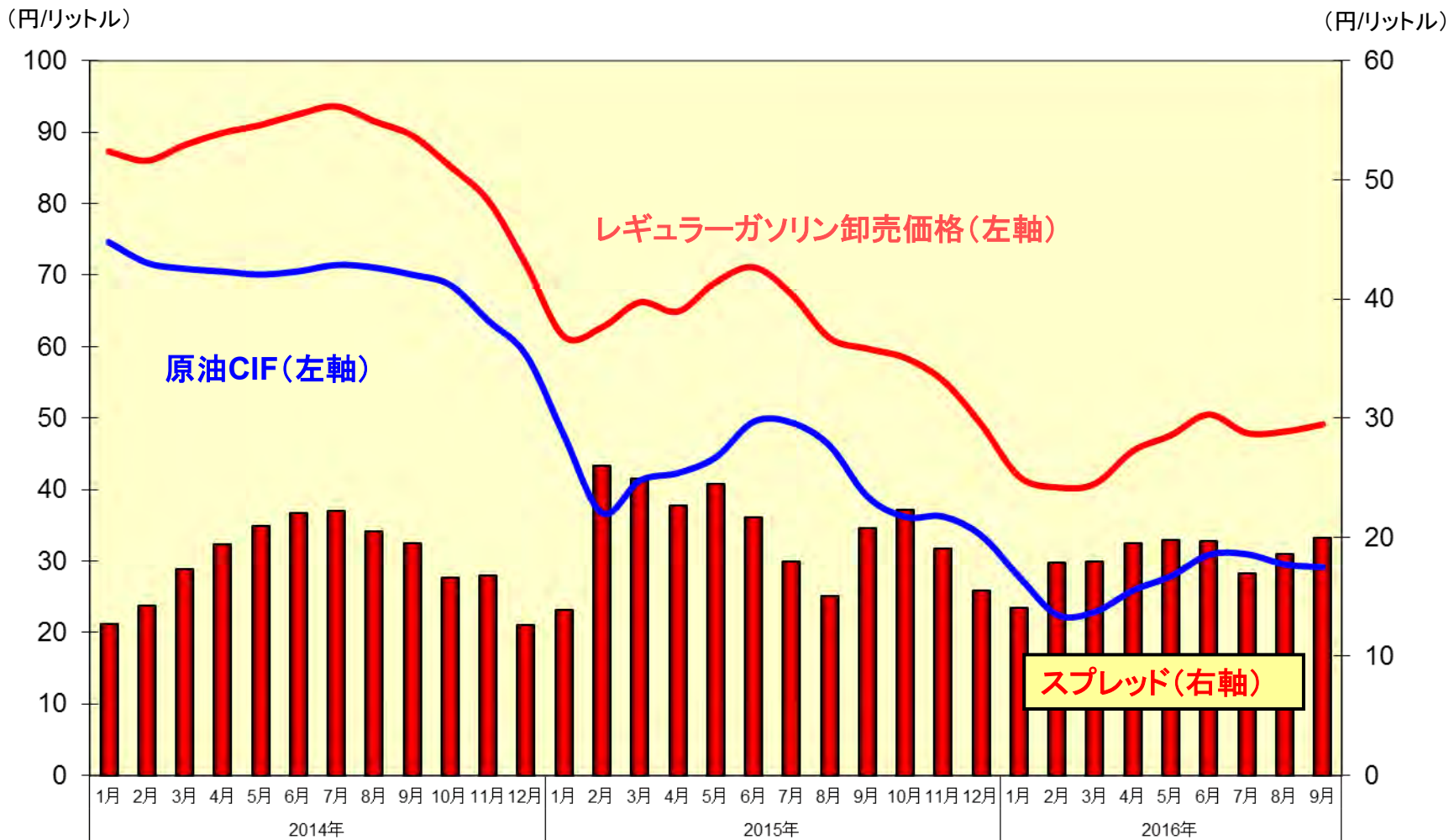
\*<sup>2</sup>営業利益への年間影響額は10億円単位の概算であり、販売数量の増減によっては異なる結果となりうる

# 販売数量 - 売上高に相当する販売数量

製品	'15年 1-9月期	'16年 1-9月期	増減	増減
<b>石油製品 (千KL)</b>				国内全体
ガソリン	8,068	<b>8,175</b>	+1.3%	-0.6%
灯油	1,824	<b>1,650</b>	-9.5%	+0.1%
軽油	2,855	<b>2,955</b>	+3.5%	-1.3%
A重油	934	<b>1,126</b>	+20.5%	+2.4%
C重油	1,594	<b>1,777</b>	+11.5%	-17.5%
LPG・ジェット・他	3,372	<b>3,139</b>	-6.9%	
<b>国内販売合計*</b>	<b>18,646</b>	<b>18,822</b>	<b>+0.9%</b>	
<b>輸出</b>	<b>5,820</b>	<b>4,367</b>	<b>-25.0%</b>	
<b>石油製品</b>	<b>24,466</b>	<b>23,189</b>	<b>-5.2%</b>	
<b>石油化学製品 (千トン)</b>				
オレフィン類その他	1,197	<b>1,222</b>	+2.1%	
芳香族類	650	<b>757</b>	+16.4%	
特殊化学品	164	<b>180</b>	+9.6%	
<b>石油化学製品</b>	<b>2,012</b>	<b>2,159</b>	<b>+7.4%</b>	
<b>設備稼働率</b> (常圧蒸留装置ベース)	<b>83%</b>	<b>79%</b>		
				国内全体 '16年 1-9月期 <b>85%</b>

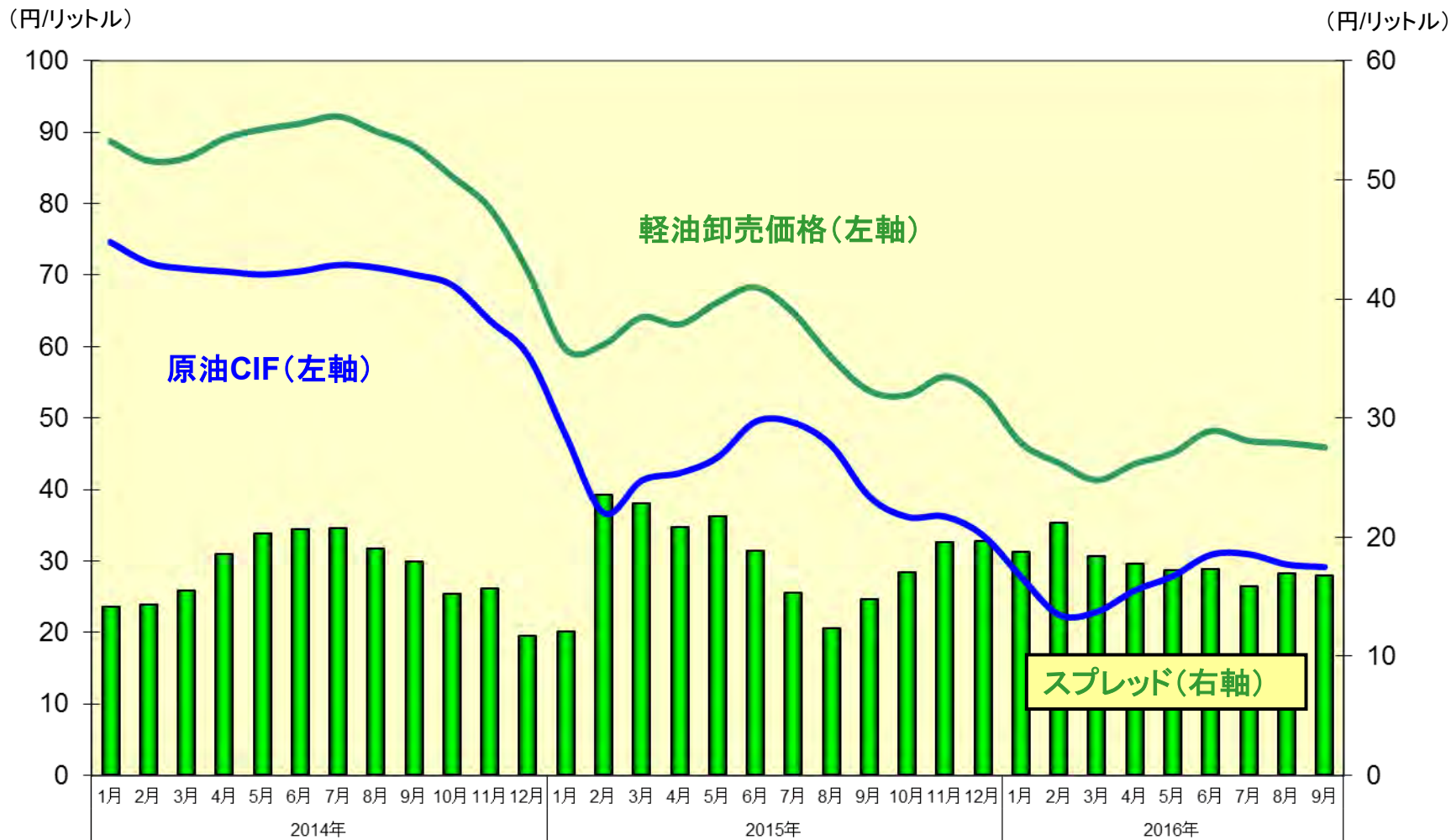
\* 保税品販売は国内販売数量に含む

# 価格スプレッド (ガソリン卸売価格－原油CIF)



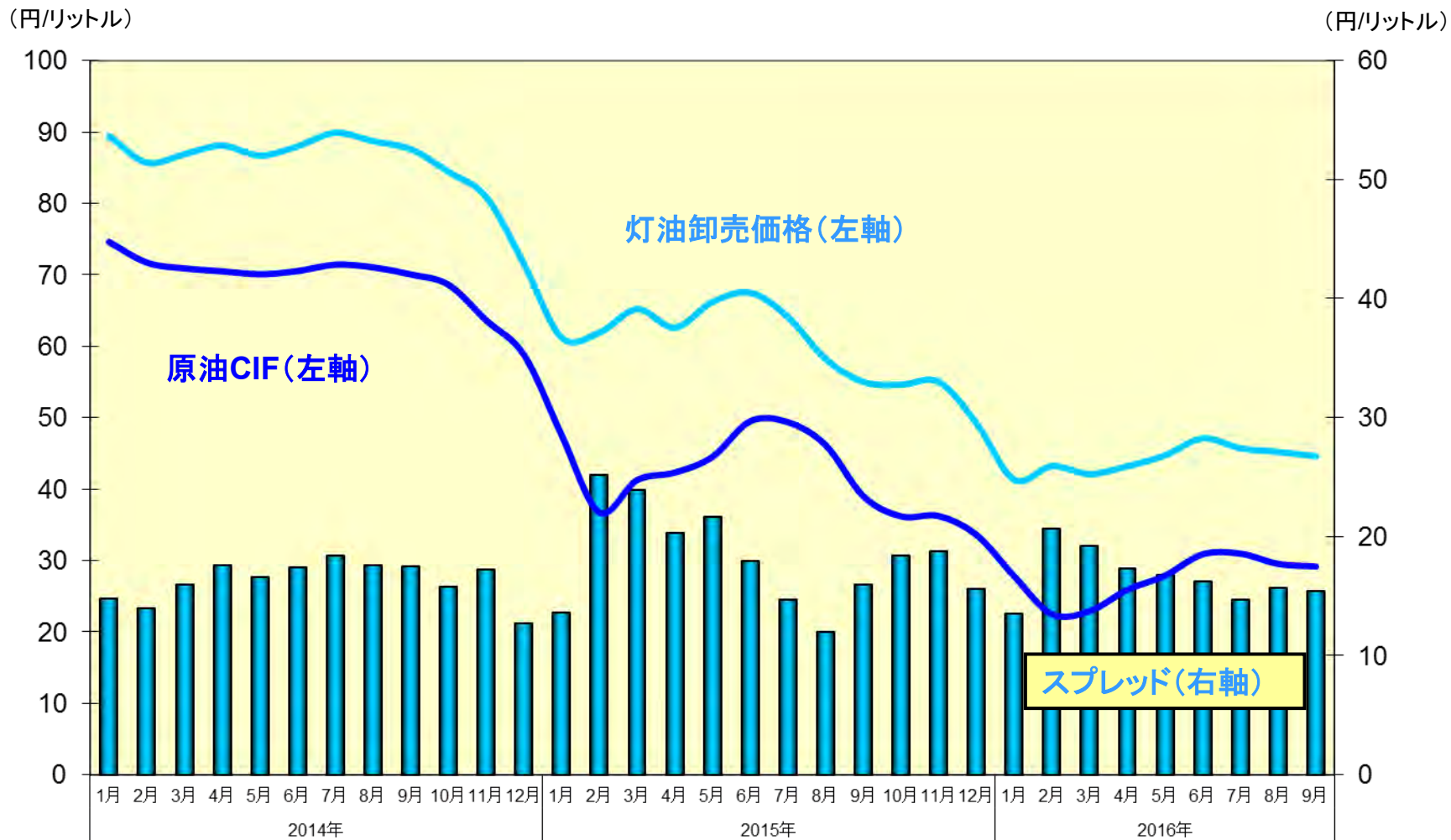
注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 価格スプレッド（軽油卸売価格－原油CIF）



注：石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 価格スプレッド (灯油卸売価格－原油CIF)



注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 営業利益内訳 (2014年 – 2016年1-9月期)

## 2016年

(単位: 億円)

営業利益内訳	'16 1-3月期	'16 4-6月期	'16 7-9月期	'16 10-12月期	'16 通期	'16 1-6月期	'16 1-9月期
石油部門 (実質)	165	-64	107			102	209
石油化学部門 (実質)	95	117	103			213	316
在庫評価損益	-283	225	-50			-58	-108
のれん償却	-44	-44	-44			-87	-131
総合計	-66	235	117			169	286

## 2015年

営業利益内訳	'15 1-3月期	'15 4-6月期	'15 7-9月期	'15 10-12月期	'15 通期	'15 1-6月期	'15 1-9月期
石油部門 (実質)	308	236	67	188	798	544	611
石油化学部門 (実質)	43	129	51	44	267	172	223
在庫評価損益	-450	228	-380	-269	-871	-221	-601
のれん償却	-44	-44	-44	-44	-175	-87	-131
総合計	-142	549	-306	-82	20	407	101

## 2014年

営業利益内訳	'14 1-3月期	'14 4-6月期	'14 7-9月期	'14 10-12月期	'14 通期	'14 1-6月期	'14 1-9月期
石油部門 (実質)	-173	6	176	167	177	-166	10
石油化学部門 (実質)	78	45	24	-16	132	123	148
在庫評価損益	1	-36	-62	-768	-865	-35	-97
のれん償却	-42	-44	-44	-44	-173	-86	-130
総合計	-136	-28	95	-660	-729	-164	-69